

飲酒にまつわる諸注意

大学生になると、ゼミやクラブのコンパ、アルバイト先での飲み会など、飲酒の機会があります。楽しい飲み会のはずが、無理な飲酒で命を落としたり、飲酒の強要により相手を死亡させたりするなど重大な事故が起こることがあります。

数年前、ある大学では、サークルの飲み会に参加した学生が急性アルコール中毒で死亡する事故が起こりました。そのサークルでは、イッキ飲みを儀式とする悪しき風習があり、学生は大量の飲酒を強要された結果、泥酔・昏睡状態となりました。その後、4時間にわたり放置され、救急車を呼んだ時には、死後2時間が経過し、死後硬直が始まっていたそうです。今年、学生の両親は、和解に応じなかったコンパの参加者21名を相手取り、合計1億6900万円の慰謝料の支払いを求めて提訴しました。和解に応じた参加者も一人あたり240万円の和解金を支払っています。

このように、重大な事故が起こった場合、飲酒を強要した自分自身やその場に居合わせた者も、加害者となってしまいます。刑事責任や民事責任を問われれば、「その場のノリ」では済まされない大変な事態になります。

大谷大学に学ぶ一人ひとりが自覚と責任を持ち、被害者にも加害者にもなることのないよう、節度ある行動を心がけてください。

未成年の飲酒は、しない・させない。

未成年の友人や後輩にお酒をすすめいませんか？また、「みんなも飲んでいるから、飲んじゃえ！」と、未成年なのに自ら飲酒していませんか？未成年の飲酒は、法律で禁止されています。

イッキ飲みも、しない・させない。

イッキ飲みや罰ゲームでの飲酒強要は、短時間で大量のアルコールが体内に入ることによって急性アルコール中毒を引き起こし、重篤な場合は、死亡する場合もあります。

また、酔ってからむ、暴言を吐く、飲めない人に飲酒を強要するなどの行為は、アルコールハラスメントといい、飲酒に関する人権侵害であるばかりか、相手の命を奪ってしまうこともあります。

隣で飲んでる「あの子」の様子、おかしくない？

お酒を飲んで、みんなが陽気に盛り上がるなか、離れた場所でぐったりしている人はいませんか？周囲の気づきの遅れも重篤な飲酒事故につながる恐れがあります。

こんな症状は

すぐに119番（救急車）

- ✓ 大いに寝かせており、ゆすって呼びかけても、つねっても起きない。
- ✓ 体温が低下し、全身が冷たい。
- ✓ 呼吸が異常に速くて浅い、または、時々しか呼吸していない。
- ✓ 大量に嘔吐している。

応急処置

- ✓ 絶対に一人にしない（放置せず、誰かが必ず付き添う）。
- ✓ 衣服をゆるめて、楽にさせる。
- ✓ 毛布などを掛けて、体温の低下を防ぐ。
- ✓ 横向きに寝かせ、吐き気があれば、横向きの状態で吐かせる（仰向けだと、嘔吐物が喉に詰まって窒息することがある）。